

水俣市での環境学習を報告 子どものためのスタディツアー

ツアーの様子を伝える中学生
(市まちなか環境学習館で)



宇部市子どものためのスタディツアー事業実施報告会がこのほど、市まちなか環境学習館で開かれた。夏休みに熊本県水俣市を視察した中学生と引率者が、30人を前に体験内容と感想を伝えた。

市が、2013年度から相互に実施しているツアー。市地球温暖化対策ネットワーク(UNCCA、溝田忠人代表)が事業を受託している。

市市民環境部の森朋子次長は「環境問題の解決に向けて、行動できる人になって」と呼び掛け、溝田代表は「3市は立地条件も風土も違つ。ツアーの参加で、身をもって得るものがあったと思う」とあいさつした。

水俣市を訪れたのは、吉富美連さん(厚南3年)、倉田幸奈さん(同)、山本華蓮さん(神原3年)、牛尾美友さん(西岐波1年)、牛尾優花さん(同3年)、野村夕紀子さん(上宇部3年)、原田龍我君(桃山1年)、長久颯真君(神原1年)の8人。

報告会では、UNCCAの太田幹夫さんが、事業概要とツアー(8月23〜24日)の様子を紹介。吉富さん、牛尾さん、野村さんが感想を発表した。(松原)

宇部市、環境首都の水俣市、絶滅が危惧される国の天然記念物・ツシマヤマネコの保護活動をしている長崎県対馬市の3